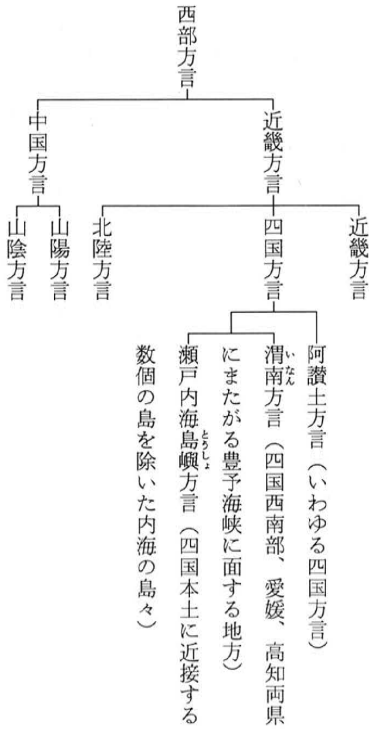


第七章 方言

一 伊予方言のあらまし

愛媛県下の大部分は古くから伊予の国としての政治、生活文化の単位を形造っていた。しかし、この単位内の生活的結びつきは必ずしも緊密ではなく、対外的な交渉や接触も、(讃岐、土佐、あるいは九州、中国地方と)地域によって事情を異にしていた。内部的にも諸藩の分立や生活圏の対立が続いていたので、地域の生活語の現状は単一ではなかった。したがって愛媛を一つの方言区画とし、愛媛ないし伊予方言を設定することはむずかしい。愛媛の方言とは単に愛媛県下の生活語というに過ぎない。



方言区画の上では、普通愛媛は高知・徳島・香川とともに四国地方の地域とされている。四国方言の地域は阿波・讃岐・伊予・土佐の大部分をさすが、地理上行政上の区画と一致するわけではない。行政上の四国地方の方言区画は、特に阿讃土方言・渭南方言・瀬戸内海島嶼方言とするのがよいと思う。渭南方言は九州東北部とともに乙種(東京型)アクセントに属し、語法や語彙にも九州方言系のものが多い。

更に愛媛県を便宜上一区画として、その内での下位の方言対立を考えると次のようになる。

一、東中予方言 いわゆる四国方言と同一系統で、東予方言と中予方言とに分かれる。

二、南予方言 四国西南部方言は、高知県西南部とも共通で、九州方言と同一系またはその変形であり、大洲方言と宇和方言の中に渭南方言を分けることができる。

三、瀬戸内海島嶼方言 四国本土沿いの二、三の島を除いた島々の方言は、中国方言(山陽方言)と同一系統である。

中予の内、小田町・中山町・広田村は、いずれも肱川の支流沿いの地域であり、地勢上も喜多郡に接近しているので大洲方言に近い。

面河川流域は高知の仁淀川の上流地域にあたり、土佐方言が入っているといえる。

二 久万地方で主に使われていた方言

方言	品詞	意味
アガリハナ	名	あがり口
アコ	代	あそこ
アズル	動	苦しむ・あがく
アダタン	動	〔すまん・間にあわん〕
アンボンタン	名	あほう者
アヌケ	名	仰向け
アザトイ	形	ざっとしている
アツカム	動	うるさがる
アゲル	動	〔へどをはく・おう吐〕
アラカタ	副	ほとんど
イガム	動	ゆがむ・曲がる
イキズム	動	りきむ
インシイ	形	いそいそと働く
イツケ	副	いつも
イデル	動	ゆがく
インマナ	感	さよなら
イヤシンボ	名	くいしんぼ
イラウ	動	さわる
イヌル	動	帰る
イッチョーライ	名	晴着
イケズ	名	いたずら子
イコロ	名	体のいきおい
イチマキ	名	一族

方言	品詞	意味
イデラシイ	形	長持ちする
イカゲン	形動	ふたしかな
ウドム	動	うなる
ウラツケ	名	祭りの翌日
ウサル	動	なくなる
ウズム	動	抱きかかえる
ウズレル	動	むし暑い
ウンザリスル	動	落胆する
エンコ	名	河童
エゲツナイ	形	下品な
オガス	動	掘り起こす
オキラ(オキ)	名	たき火の残り火
オケンタイ	形動	あたり前
オゴロ	名	もぐら(動物)
オジル	動	おそれる
オゾケガタツ	動	ぞっとして恐しい
オチョクタル(オコツル)	動	からかう
オドレ	代	お前
オトドイ	名	兄弟・姉妹
オトミ	名	ちよつとした返礼
オドロク	動	眠りからさめる
オトロシイ	形	おそろしい
オトンボ	名	末っ子

方言	品詞	意味
オナゴバス	名	女の卑称
オノレバイ	名	野生
オツツケ	副	もうすぐ
オリ	名	沈黙物
オトゴ	名	末っ子
オトコシ	名	男たち
オトツイ	名	一昨日
ガイナ	形動	強い・元気な
カザム	動	かぐ
カズク	動	かむる
カタツラ	名	片一方
カルウ	動	背負う
カーヤン	名	おかあさん
カチマワス	動	なぐる
キシヤナイ	形	きたない
キセリ	名	きせる
キビス	名	〔気味〕
キンカン	名	〔かかと〕
キサンジナ(キサンジイ)	形動	はげ頭
キビラシイ	形	〔すっばりした〕
クスベル	動	気味のよい
クヤス	動	いぶす
クラスマ	名	くずす
クド	名	暗い所
クツイ	形	かまど
ギー	名	こわばった感じ
ギー	名	嘔吐物

方言	品詞	意味
グスイタ	名	風呂の底板
ゲッコ	名	げた
ゲド	名	人をのしる語
ケブタイ	形	けむい
ケンベキ	名	けんびぎ
ゲドサレ	名	罵ることば
ケンガク	副	ずいぶん
ケンド	名	〔けれども〕
コーロク	名	奉仕の労働
コアライ	名	子育て
コイサ	名	こよい
コカス	動	倒す
ゴクドサレ	名	放とう者
コサエル	動	作る
コンバカス	動	くすぐる
ゴネル	動	無茶をいう
コナイダ	名	この間
コラエジョー	名	忍耐力
ゴロタ	名	いびぎ
コットイ	名	牡牛
ゴッポリ	副	すつかり
コブル	動	まぜる
ゴーヤク	動	怒る
ゴータイナ	形動	なんぎな
ゴツツォー	名	ご馳走
コマイ	形	小さい

サイキョー	名	いらぬ指示・干渉	セロシイ	形	いそがしい	チョロマカス	動	ごまかす	ドマグル	動	とまどいする
サカムゲ	名	指先のささくれ	セセカマシイ	形	うるさい	チョクチョコク	副	少しずつ	ドロベタ	名	地べた
サブシイ	形	さみしい	セツク	動	つつく	チョビット	副	少し	トント	名	お酒
ザマナ	形	みつともない	セバイ	形	せまい	チョンマイ	形	小さい	ナンチャ	副	なんにも
サッチニ	副	むりやり	ゼンゼ	名	銭	チンチマンマ	名	米の飯	ナンボ	副	いくら
サドイ	形	すばしこい	センゴ	名	ものの背	チョロイ	形	にぶい	ナンシロ	名	苗代
サライ	名	〔新しい・浅い 四つ鞆〕	センチ	名	便所	チンマイ	形	小さい	ナンナラ	副	もしかしたら
ジーヤン	名	祖父	セワナイ	形	苦もなくできる	ツエル(タ)	動	崩れる(た)	ナヤスイ	形	たやすい
シアサツテ	名	明々後日	セガム	動	ねだる	ツヅマリ	副	結局	ニヤスイ	動	打ちのめす
シコタマ	副	どっさり	ソノカイ	副	そのかわり	ツベ	名	尻	ニヤス	動	打ちのめす
シヨーブワケ	名	遺産分配	ソソカイ	接	それで	ツラマエル	動	捕える	ニギリ	名	欲深い人
ジョーリ	名	ぞうり	ソソ	名	血統	ツバエル	動	じやれる	ニクゾイ (ニクドイ)	形	憎い
ショタイ	名	炊事・家庭をもつ	ゾーヨウ	名	諸経費	ツヤス	動	つぶす	ヌワ	名	まぬけもの
シラザツタ	名	知らなかった	タコソル	動	なぶる・しぼる	ツイシタラ	副	もしかしたら	ネセル	動	寝させる
シモタケ	感	こんばんは	タグル	動	咳をする	テ(あのテの もの)	名	種類とか・かたの意 からかう	ネチコイ	形	しつこい
シコナ	名	あだ名	タジナイ (タジナイ)	形	たくさんない	テガウ	動	からかう	ネラム (ネメル)	動	にらむ
シワル	動	〔仕事〕が夕方まで おそくのびる	ダラシイ	形	疲れてだるい	テンゴノカア	名	〔おせつかい・て に合わないこと〕	ノサクナ	形動	粗略
スエル	動	腐敗する	ダル	名	人糞尿	テンデニ	副	めいめい	ノーナナル	動	なくなる
スッコム	動	引っこむ	ダンダン	感	ありがとう	テガマシイ	形	〔うるさく手出し をする〕	ハメ	名	まむし
スワブル (スバブル)	動	しゃぶる	ダンドリ	名	計画	テング	副	いらぬ手出しをする	ハネガイ	名	餅
スボラス	動	くすぶらす	ダヤ	名	牛馬の小屋	トー	名	品種・血統	ハンソイ	名	たがいちがい
ズク	名	熟柿	タニゴ	名	小川・谷川	ドーション	副	どうやらこうやら	ハイトイ	名	もろい
スマザツタ	動	済まなかった	ダマシニ	副	急に・いきなり	ドヤクラカス	動	なぐる	ヒダルイ	形	ひもじい
スクメル	動	ごまかして取る	ダマカス	動	おどろかす	トロクサイ	形	うと	ヒチメンドク	形	面倒な
スコイ	形	ずるい	チビル	動	すりへる	トワイ	形	遠い	ヒヨロダウ	動	ひよろつく
スネグロ	名	いなか者	チャガマル	動	動かなくなる	トンギラス	動	とがらす			

ヒロヒロ	副	〔喰いたそうにし てうろろうする〕	モシヤグル	動	もみくしゃにする
ヒンガラメ	名	斜視	モヤイ	名	共同作業
ヒンノム	動	のみこむ	モロブタ (ムロブタ)	名	餅を入れる重ね箱
フスボラス	動	くすぶらす	モモタブ (モモタブラ)	名	ふともも
ブチマス	動	打つ	ヤシベル	動	軽蔑する
ヘコダスイ	形	なまぬるい	ヤケハタ	名	やけど
ヘズル	動	へらす	ヤゼン	名	昨夕
ヘチコ	名	見当ちがい	ヤタラ	副	むやみに
ヘラコイ	形	ずるい	ヤヤ	名	赤ちやん
ホイト	名	乞食	ヤラシイ	形	いやらしい
ホケ	名	湯気	ヤンダ	副	あまり
ボケナス	名	馬鹿	ヤネコイ	形	むずかしい
ホシテ	接	そうして	ユンベ	名	昨夜
ホイタラ	接	そうしたら	ユルリ	名	いろり
ホタラ	接	そうしたら	ヨーケ	副	たくさん
ホロケル	動	落ちる	ヨタンボ	名	よっぱらい
ホロケサク	名	まじめでない人	ヨバレ	名	寝小便
ホシタラ	接	そうしたら	ヨモクル	動	〔よもだを言った りしたりする〕
マギル	動	じやまになる	ヨモダ	名	まじめでない
マホコ	名	まとも・真正面	ヨリ	名	集会
マツボリ	名	へそくり	ヨンベ	名	昨夜
マツコト	副	ほんとう	ヨモチ	名	世帯持ち
ミヅイ	形	短い	リコイ	形	りこうな
ミゾコ	名	溝	(ロクスツッポ)	副	ろくに
ムクタイ	副	全然	ロクダマ	副	ろくに
ムツコイ	形	味が濃すぎる	ワケス	名	理由
メツソ	名	目分量	ワザト	副	故意に
メンドイ	形	面倒な	ワヤク	名	いたすら
モガウ	動	さからう	ワルサ	名	いたすら

科学文化の進歩と産業経済構造の変化は、昭和四〇年以降生活圏をはじめ生活様式をも著しく変化させた。テレビ・電話の一〇〇%近い普及と交通網の整備から通勤範囲が拡大し、生活の上でも都市と山漁村の格差はほとんどなくなった。従って言語の孤立性は解消され、時代の流行語まで即生活に入ってくる状況で、上記の方言のほとんどが、青少年にとってほど遠いものになっているといえる。